

今週の注目マーケット情報(ブルムバーグより)

インフレは一時的

現時点で市場参加者の多くは「インフレは一時的」とするFRBの見解を素直に受け入れているように見える。であるとすれば、今回のドット・プロットで示されたように、利上げがあるとしても2023年以降で、かつそのペースは極めてゆっくりとしたものになるという予想に違和感は少ないだろう。そうすると長期金利が今後多少上がっていくとしても、それは秩序だったゆっくりとしたものになるだろうし、そうだとすれば、株価は今までのペースで上昇し続けることが難しいとしても、大幅な調整が起きることも考えにくい。つまりは、全体的に見れば比較的穏やかな相場展開が続く可能性が高い、ということだ。

もっとも、すべては「インフレは一時的である」という前提にかかっている。この前提が本当に信頼に足るものなのか、あるいはとんでもない勘違いであるのか、判定が下るまでにはまだまだ時間が必要である。

来年が望ましい

アトランタ連銀のポスティック総裁は、米金融当局が資産購入ペース減速を向こう数カ月に決定する可能性があるとして述べたほか、[2022年の利上げ開始](#)が望ましいとの見解を示した。総裁は記者団に対し、「最近のデータが示す上方向へのサプライズを考慮し、米金融当局の最初の動きに関する自分の予測を22年終盤へと前倒しした」と発言。またダラス連銀の[カプラン総裁](#)もブルームバーグ・ニュースのインタビューで、インフレ率が今年と来年に当局目標の2%を上回り、失業率は4%未満に低下するとし、22年の利上げ開始を予想した

ずっと先

ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁は、米金融当局は債券購入のテーパリング(段階的縮小)についての議論を始めたところであり、金利引き上げに関する議論は[まだかなり先](#)だとの考えを示した。総裁はブルームバーグテレビジョンとのインタビューで利上げについて、「それはまだずっと先の将来の話だ」と発言。「今はテーパリングに焦点が絞られていると思う」と述べた

ビットコイン反発、3万ドル割れで「アルマゲドン」は起きず

23日は3万4000ドル弱で推移、前日の急落から持ち直す
とりあえず嵐は乗り越えたと思われるーオアング

暗号資産(仮想通貨)ビットコインは23日に反発した。前日には一時3万ドルを下回り一斉売りの懸念もあったが持ち直した。

ビットコインは3%高の3万3900ドル前後で取引されている。22日には今年の上げを全て失う場面もあった。

オANDA・アジア・パシフィックのシニア市場アナリスト、ジェフリー・ハレー氏は、3万ドルが「アルマゲドン」の水準として注目されていたが、「スマートマネーがストップロスの水準を下げたのではないかと指摘。「3万4000ドル弱の現水準ならば、とりあえず嵐は乗り越えたと思われる」として、大規模な売りの引き金になる水準は2万8000ドル割れとの見方を示した。

1年ぶり

23日の外国為替市場で、円が対ドルで約1年ぶりの安値となった。米連邦公開市場委員会(FOMC)が先行して緩和政策を縮小し始めるとの見方から、米国資産の投資妙味が高まっている。円は一時0.4%安の1ドル=111円10銭と、2020年3月以来の安値。FOMCが23年に利上げを2回実施する可能性がある一方、日本銀行は緩和政策を長期間維持するとトレーダーの間ではみられている